

地域学校協働本部

地域学校協働本部がはじまりました！

令和3年度から、飛田給小学校に地域学校協働本部が設置されました。調布市では、地域人材を活用し学校教育をより充実させるために、平成22年度より第八中学校で「学校支援地域本部」を立ち上げました。以降毎年1校ずつ「学校支援地域本部」を立ち上げてきましたが、平成30年に「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」に名称を変え、令和3年4月からはすべての小中学校に「地域学校協働本部」を設置し、今まで以上に学校と地域人材が組織的に結びつき、学校教育に参加できるような体制を整備しました。

学校応援団として

飛田給小学校 校長 山中ともえ

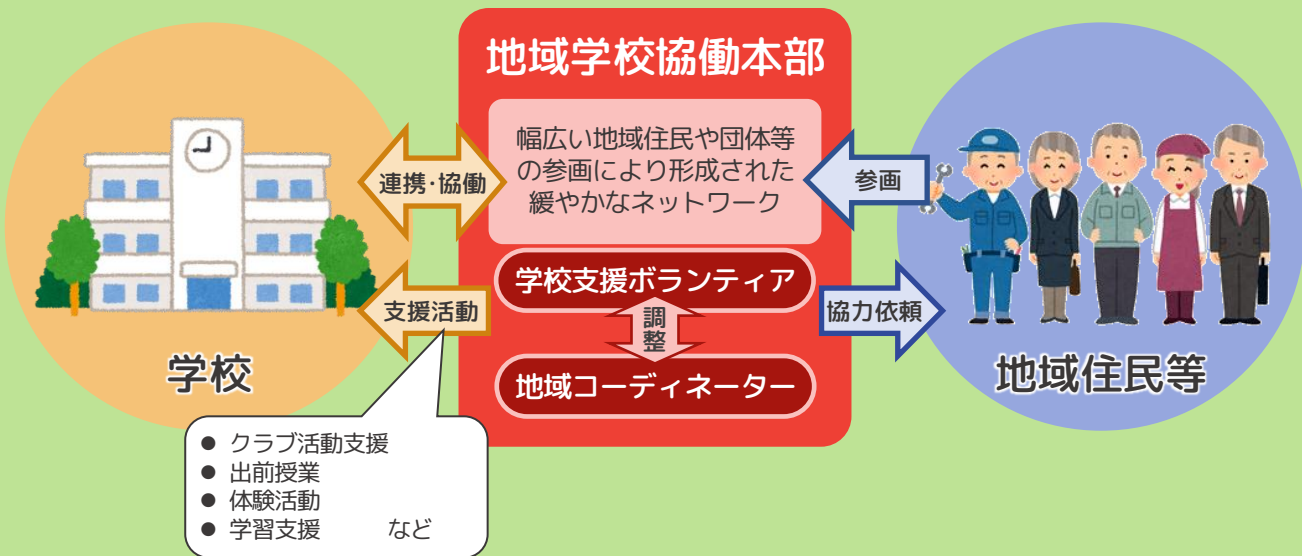
これまで、本校は地域の学校として、PTAを始め健全育成委員会や地区協議会等から教育活動に対して様々なご支援をいただいているところですが、これからの学校は、さらに学校運営に地域の方も加わっていただくコミュニティ・スクールを目指す方向にあります。その前段階として、実際に学校の教育活動に加わっていただく「地域学校協働本部」が調布市の公立小中学校全てに設置されます。今、本校では、授業の支援をしていただく支援員や水泳指導の補助、総合的な学習の時間のゲストティーチャー、登下校の見守り隊、行事の準備や運営のお手伝い等、その都度、人材を探して依頼しています。これらの学校を支援していただく方々を組織的にまとめていくことが「地域学校協働本部」になります。今や、学校は学校に勤務している教職員だけでは多様な教育活動を展開していきません。はじめの一歩を踏み出すために、昨年度までのPTA会長の有田秀吾さんに地域コーディネーターをお願いし、引き受けていただきました。ぜひ、多くの方々に関心をもっていただき、学校応援団となっていたいだきたく思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

地域学校協働本部とは？

昨今、少子高齢化や地域のつながりの減少による地域の教育力の低下や、発達障害や貧困といった福祉的な課題の増加などを背景に、学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、学校だけではなく、**社会全体で子供の育ちを支えていくこと**が求められています。

次の時代を担う子供たちに対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、**地域と学校が「連携・協働」**し、多様な取組みを、より継続的に行うことが重要です。

地域学校協働本部とは、そのような「学校を核とした地域づくり」を目指すための「仕組み」です。



裏面に続く

今年度の活動について

今年度の活動については、初年度ということもあり、活動メンバーの募集や活動の方向性の検討が主な内容となります。その中で、年度末までに1つ以上の支援活動を行うことを目標にしています。

学校支援ボランティア

クラブ活動支援

学校として力を入れているものへの支援

- タグラグビー
- 合唱 など

出前授業・体験活動

企業の社員や専門家が講師として学校に出向き行う授業

- 地域の専門家
- 大手企業のCSR活動 など

学習支援

教員や指導員のサポート

- ICTやプログラミング
- 放課後補習 など

地域コーディネーター

活動推進・調整

地域や学校、協力団体とのカゲハシとなり活動を推進

- 学校とともに企画・立案
- ボランティアの募集・確保 など

気軽にトライ！

地域コーディネーター 有田秀吾

PTA会長に続き、今回も何も分からず、自分に何かできることがあるならと思い、再び軽い気持ちで引き受けてしまいました。この話を頂いてから、時間を見つけては「地域学校協働本部」を調べていました。さて、なぜ「地域学校協働本部」が必要なのでしょう？

現在、子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しています。発達障害や貧困といった福祉的な課題の増加などもありますし、グローバル化、人工知能の進化などにより、現在ある仕事の多くが消滅し、子供たちの半数近くが現在存在していない職業に就くことになるとも言われています。これからの社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、子供たちが将来、自ら課題を見付け、学び、考え、判断して行動できるように、子供たちの「生きる力」を育むことが、学校教育に求められています。そのような多様な教育活動を地域で支えるのが「地域学校協働本部」です。

そのような思いを共有しながら、私たち地域の力で、学校を、子供たちを、先生方を応援してみませんか？

学校支援ボランティア
地域コーディネーター

募集中！

あなたが支える子どもの未来。

飛田給小学校の地域学校協働本部は始まったばかりです。できることを、できる範囲で行うために、地域の皆様のご理解とご協力が必要です。具体的な支援が思いつかない方でも、どうぞお声掛けください。できることから一緒に考えていきましょう。